

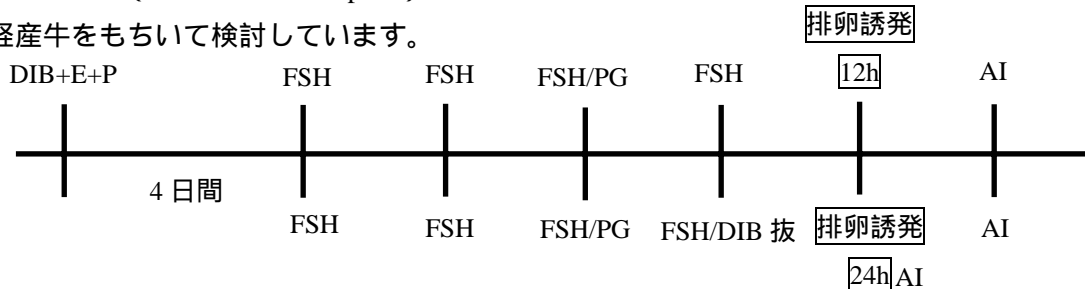
JA 全農 ET センターニュース 19 年 3 月号

2007 年 1 月、国際受精卵移植学会 (International embryos transfer society ; IETS) が京都で開催され、世界各国から研究者が集まり、約 400 もの研究成果が報告されました。今月は興味深かった研究について報告させていただきます。

EFFECT OF TIME OF OVULATION INDUCTION BY GONADOTROPIN-RELEASING HORMONE OR PITUITARY LUTEINIZING HORMONE ON OVA/EMBRYO PRODUCTION IN SUPERSTIMULATED BEEF COWS INSEMINATED AT A FIXED TIME. Chesta *et al.* Reprod Fertil Dev 2007, 19(1), 307.

(過剰排卵処置後定時人工授精された肉用牛の採卵成績における GnRH あるいは pLH により誘発された排卵のタイミングの効果)

近年、定時人工授精に関する研究が多く報告されていますが、上記の著者らは以下の図のようなプロトコルで過剰排卵処置後定時人工授精を行いました。そして過剰排卵処置後の排卵誘発剤 (GnRH あるいは pLH) をどのタイミングで投与するのがよいのかをアングス種経産牛をもちいて検討しています。



* DIB : 黄体ホルモン製剤、E : イストラール、P : プログエストロン

DIB 抜去から 12 時間あるいは 24 時間目で排卵誘発し、それぞれの処置時間の 12 時間および 24 時間後に 1 本ずつ AI を行った採卵成績を表に示します。

誘起時間	N	回収卵子数	受精卵数	移植可能胚数
12h	52	5.0 ± 0.6	3.5 ± 0.5 ^a	2.7 ± 0.4 ^a
24h	47	6.2 ± 0.8	5.0 ± 0.6 ^b	4.0 ± 0.5 ^b

a,b, P < 0.05

DIB 抜去から 12 時間目の排卵誘起処置区の受精卵数と移植可能胚数は、24 時間目のそれと比較して有意に低下した。以前、我々も過剰排卵処置後の LH サージより前に排卵誘発剤 (GnRH) を投与した場合の移植可能胚率は低率であったことから、同様の結果を示している。しかしながら、著者らの過剰排卵処置プロトコルで LH サージがどこで生じているか記載されていないことから今後、詳細の報告を待ちたいところである。